



持続可能な地域社会をつくるための
消費行動ガイドブック

今から ここから 私から始めよう！ 未来へつなぐ消費

四国大学経営情報学部 経営情報学科
3年 篠原 瑠那 (Runa Shinohara)
正木 恒太郎 (Koutaro Masaki)
渡邊 帆南 (Honami Watanabe)

1 大学での学びを地域貢献に活かす

四国大学では、持続可能な地域社会構築の拠点として、
地域貢献活動に取り組んでいます。

1. 持続可能な社会づくりを「自分ごと」として考え行動します。
2. 学んだことを発信し、エシカル消費の普及を目指します。
3. 地域の文化や暮らしを大切に継承し、エシカルで人と地域を元気にします。



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

四国大学サステナブル宣言
これまでの100年を礎に これからの100年を創造する



四国大学は、「全人的自立」を建学の精神として、持続可能な地域社会の構築に貢献できる人材の育成を行ってきました。

2025年、学園創設100周年を迎えるにあたり、これまでの100年の歴史を礎に、新たな100年の未来を拓くため、対話と知識のダイナミックな変革によるナレッジイノベーション（Knowledge Innovation）と「総合知」「実践知」の創出を展開していきます。そして、大学の全ての構成員・組織はSDGsの理念に即し、またその実現のための教育・研究・人材育成、そして社会貢献活動を推進し、地域との共生と世界のサステナビリティの実現に貢献することを宣言します。

2022年7月27日
四国大学・四国大学短期大学部
学長 松重 和美



2 今私一人でできること



**消費は、
未来への投票です！**

私たちが何を選ぶか、
どこで購入するか、
どのような購入の方法を選択するのかによって、
地域や未来へ影響が及ぶことを考えたいと思います。





Single-useからReusableへ



ペットボトルを購入するよりマイボトルを持とう！
バッグの中にマイカトラリーを入れておこう！



プラスチックフリーのタンブラー
紙とトウモロコシ由来の生分解性
樹脂からできている。

【効果】

- ★マイボトルを使うと飲み物の保温、保冷ができる
- ★割り箸の使用を控えることで森林保護に繋がる
- ★プラスチックごみの削減に貢献できる
- ★節約にもつながる

ここで少し疑問が・・・

割り箸を使わないことは森林保護になるの？

「割り箸を使わないことが森林保護になる」とよく耳にしますが、本当にそうなのでしょうか？

実は日本で作られている割り箸は、端材や残材・間伐材が原料になっているのです。割り箸は、不要なものの有効活用だったのです。

マイ箸も、使うたびに水や洗剤を使って洗浄をするという点では、環境負荷になると考えられます。割り箸にもマイ箸にもメリット・デメリットがあることから、どちらを選択するのが正しいか明確な答えを出すことはできません。

ただ、一度きりの使い捨て「**Single-use** スタイル」から、繰り返し何度も使うことができる「**Reusable** なスタイルへ」の転換を考えることが大切です。

近い将来、マイカトラリーを持つことがオシャレでカッコいいと認知される社会が来ることを信じています。



竹でできたMYカトラリーセット

3 大学の学びや活動を通してできること



商店街の活性化を目指し
「エシカル商店街」を提案！



学部や学年にかかわらず
「消費者市民社会」を学ぶ



地域の伝統や生活文化から
地域の強みを発掘



大学内でサステナブル・ファッションに関する
シンポジウムを開催し、学生がパネリストとして
登壇



環境に配慮した授業方法の導入 森林保護に加えてメリットも



<1>

講義は学生がPC・タブレットや
スマホを使う内容にする

- ペーパーレス化の推進
- 作業効率化



キャンパス内に設置された
ペットボトルキャップの回収
BOX

<2>

プリント紙の削減

- ごみ削減
- 「捨てないキャンパス」



キャンパス内で回収
したペットボトルキャ
ップを材料の一部に
活用したボールペン





自分たちが学んだことを伝え 誰かの学びをサポートしよう！



エシカル消費を学んだ大学生が、「**エシカルガイド**」となって、環境や人・社会に配慮した商品選びについて小学生に解説

- 商品選択の情報として表示を理解する
- 詰め替え用商品を選ぶことで廃棄物が減量

改めて脱炭素を実現するためには、様々な人や組織との協働連携が重要であることを再認識し、**地域コミュニティの役割**について学ぶことができました。



「脱炭素」をテーマとしたまちづくりゲームに大学生と高校生・社会人が一緒に挑戦！



その他学校でできること



リサイクルステーション設置

* ポイント制で貯まったら交換



エアコン設定温度を適切管理



学食のお箸を**Reusable**に

4 地域の特色を活かしてできること



エシカル消費をキーワードとして、地域の
様々な世代と交流
消費を通して地域を元気にしたい！



古くからの木工技術を活かし、端材から作られた
「遊山箱」(ゆさんばこ)
食を楽しむ徳島の生活文化

徳島の誇る伝統産業である
藍染を学び、その魅力を発信することで地元消費に貢献





無印良品が設置しているような 給水ポイントを地域内につくろう



- ☆ボトルを再利用でごみを削減
- ☆無料が嬉しい！節約応援



徳島に根づく“お接待”文化は、
徳島モデルの
ホスピタリティマインド！



徳島モデルの **おもてなし**とは？



無料で誰もが利用できる
給水機が設置されている

おもてなしとは

英語で近い意味を持つのは
「hospitality」

お客様が心地よく過ごせるように心を
込めて準備し、最大の歓迎の気持ちをも
って対応すること
→お客様の満足を最大限にする努力

徳島はもとより四国には「お接待」という文化が
根づいている。「お接待」とは、お遍路さんの無
事を願いながら温かく応援し、無償でお菓子や飲
み物などを提供することを言う。
約1200年前から、地域で脈々と受け継がれて
きた文化である。



ごみの分別ステーションを各地域に作り、 地域住民が廃棄物削減と資源循環に 積極的に参画しよう！

2003年にゼロ・ウェイスト宣言をした上勝町は、国内外から注目されている。
ごみ収集車が無い上勝町では、現在ごみを13種類45分別し、リサイクル率80%を達成！
ゼロ・ウェイストとは、無駄や浪費、そしてごみをなくすという意味。ごみの処理を考えるのではなく、ごみを生み出さない社会を目指すことの大切さを訴えている。

上勝町のゼロ・ウェイストセンター



課題は、ごみ分別ステーションの認知度アップ

地域で「ごみ分別ステーション」を活用するメリット

- ・ ごみの削減 → **ごみの発生を抑制**
- ・ 資源を地域内で循環
- ・ リサイクルで収益を創出
- ・ エネルギーを節約



脱炭素とゼロ・ウェイストな地域づくり

では、ごみ分別ステーションの認知度を上げるには・・・？

認知度アップのための4つの方法



利用する人の視点を持ち魅力を考える

情報を伝えるためには、発信する側の思いだけでなく、受け取る側の視点を考えなければならない



フリーマーケットの活用

回収したりリサイクル品をリユースすることにより、新規の利用者を獲得することができる。廃棄する前に、リユースの視点を持つことが大切である



インフルエンサーや芸能人の起用

大きな影響力を持つ人からの発信により、サステナブルの「聖地」として位置付け発信することでリーチを増やしていく



SNSを活用し人を惹きつけるような宣伝

現代の情報発信は、SNSが主流である。国内のみならず全世界への多言語発信に加えて、ハッシュタグを用いて効果的に宣伝する

最後に

今回の海外大学とのオンライン交流会や“とくしま国際消費者フォーラム2022”を通して、国や世代を超えて多くの人と出会い交流を深めることができました。その中で、持続可能な消費や地域づくりに対する学びを深めるとともに、新しい視点に気づき、とても良い刺激を受けることができました。

また、改めて私たち一人一人がSDGsを「自分ごと」として受け止め、主体的に周囲に働きかけながら、持続可能な地域づくりの担い手として成長したいと決意しました。

